

師走：第21話「世界に一つだけの花」

12月5日の学校関係者評価委員会において、委員の方から「自信は、自分の手で拾って、集めていけないといけない」というご意見をいただきました。日本の子どもたちは、自己肯定感が低いと言われています。本校においても、学力調査の質問紙調査の結果を県や全国と比較しても、それほど高い数値ではありませんでした。そこで、昨年度から、子どもたちががんばったことを「見える化」したり、友だち同士で認め合ったりする場を確保してまいりました。

12月23日の終業式において、2学期にがんばったことを紹介しました。右の写真は登校の様子です。この班は、1学期当初から一列にまっすぐ並んで登校しています。この後、坂町が推奨する「立ち止まって相手を意識した挨拶」をしてくれるので、門に立っている私も、元気をもらっています。

また、2学期は学習発表会や校内持久走記録会等、学校行事が続きましたが、全校で、自分ができるようになったことや友だちががんばっていたことなどを作文に書いてきました。「東大寺では、大仏が燃やされたけど、また造られたおかげで、観光する人がいるんだと思いました。修学旅行で支えてくれた先生やホテルの人、友達に感謝したい(6年男子)」「友だちが、『青い空にえをかこう』をうたうときに、とってもえがおであかるくうたっていました。とてもきれいなのはらにいるみたいでした。(2年女子)」「みんなさいごまで、あきらめなかったのが、かっこいいとおもいました。〇〇くんみたいに足がはやくなりたいです。(1年男子)」等々、このように、子ども同士でお互いの良さを認め合う関係を築いているところです。

それから、児童会の運営委員を中心に、学校の課題や重点的に指導していることについて子どもたちなりに考えて、行動を起こしてくれたことです。



左の写真は、20日に開催された児童会主催の冬の集会で、大豆を箸でつか

む「競技」を行っているところです。今年度、本校は、正しい箸の使い方をするように指導しております。それを意識してか、児童会でも箸の持ち方に興味を持ってくれ、「競技種目」に採り上げてくれました。

実際、上手に箸で大豆をつまめる児童は、箸を上手に使っているなあと感じました。

また、昨年度から懸案となっている相手を傷つけるチクチク言葉をなくす取組も、児童会の運営委員会が、劇を通して、子どもたちに訴えてくれました。教師からの指導だけではなく、児童の側から劇を通して自分を振り返ることで効果が上がると考えております。

今、子どもたちは、おなじみの歌「世界に一つだけの花」を練習しております。♪そうさ僕らは 世界に一つだけの花 一人一人違う種をもつ その花をさかせることだけに 一生懸命になればいい♪

来年も、一人一人が天与の花を咲かせるために、学校がすべきことを、子どもたちといっしょに考え取り組んでいきたいと思ひます。

